

1. 原稿の提出について

印刷には多くの費用がかかります。とくに校正段階での修正は、コスト・時間を要しますとともに大きな負担ともなりかねません。原稿の提出にあたりましては、この点をご理解いただき、完成原稿をご提出くださるようお願いいたします。

2. 原稿の長さについて

投稿論文の長さは、日本語の場合で研究論文は 20,000 字、報告論文は 10,000 字と原稿字数を制限しています。規定字数を超えた場合は「編集委員会」から圧縮を求められることがあります。

3. 表紙について

投稿する論文の表紙には、「研究論文」または「報告論文」の区別、論文タイトルは日本文タイトルと英文タイトルの両方を記し、著者名（ローマ字記載を含む）、著者の所属機関（英文記載含む）、「連絡先」を記してください。

4. 原稿の書式と提出方法について

(1) すべてA4判縦置き、10.5ポイント活字、横組みに設定してください。

●原稿1頁あたり21字×45行（組みあがり半頁分）、または42字×45行（組みあがり1頁分）に書式を設定してください。

(2) コンピュータで作成した外字およびパーソナル・コンピュータの機能に依存する特殊文字の使用は避けてください。

(3) 原稿は電子ファイルで（FDまたはCD-R）作成し、以下の提出物と一緒に提出してください。

- ① 論文正本 1部
- ② 審査用副本 3部
- ③ 論文要旨（1,000字程度）（英文記載含む）
- ④ キーワード5点以内（英文記載含む）

5. 原稿作成要領

新かなづかい、新字体使用を原則とする。常用漢字を中心とし、あまりむずかしい漢字は避けてください。

(1) 見出し数字

論文の節分割はローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、…）で行い、見出しを添える。さらに区分する場合は、アラビア数字のピリオド添え（1.、2.、3.、…）とする。

(2) 句読点

句読点は「、」「。」で統一する。

(3) 図表

図表は本文とは別紙にまとめ、通し番号・タイトルを付け、本文中にその挿入箇所を指示してください。とくに正確を期する必要がある図は、グラフ用紙などを作図し、その原図を提出ください。

(4) 注

注は「末尾注」として、論文本文の末尾にまとめる。注番号は1)、2)などと振り、「上付き、片パーレン（丸括弧）、半角」とする。なお、単なる典拠注は、本文の中に入れる。

(5) 引用

原典の省略は、「…」(三点中黒、一字分)で示す。また、孤立した長い引用の場合は、前後に一行空けて各行を一字下げるなど、引用であることを明記する工夫をしてください。

(6) 参考文献

「参考文献」は「末尾注」の次に置く。洋書（著者のABC順）、和書（著者のアイウエオ順）の順で分けて並べる。同一著書で同一年に2つ以上ある場合は、年号の後にa,b,c等を付けて区別する（例: [2004a], [2004b]）。洋書の書名や雑誌名はイタリック体にする。以下に例示する。

参考文献例

(論文)

Brunner, K. and A. H. Meltzer [1972] Money, Debt and Economic Activity, *Journal of Political Economy* 80-5

加藤栄一 [1968] 「戦時金融の遺したものーアメリカ連邦財政と両大戦間の景気循環ー」, 東北大学研究年報『経済学』30-1

(著書)

Perlo, Victor [1963] *Militarism and Industry*, International Publishers. 清水嘉治・太田譲訳『軍国主義と産業』, 新評論社, 1967年

大島清編 [1973] 『戦後世界の経済過程』, 東京大学出版会

(7) 英文要旨

英文要旨は、ページを独立させ、「参考文献表」の次に置く。ただし全文が英文の場合は、論文の最初に Abstract の形で置く。要旨の最後に JEL 分類番号を3つ以内で添えること。